

## 福井全中を終えて

札幌市立札幌北中学校 女子バスケットボール部顧問 奥山 隆敏

### 【はじめに】

この度、多くの方々のご支援、ご協力により福井県で開催されました「第46回全国中学校バスケットボール大会」に北海道ブロック代表として参加させていただきました。僭越ではございますが、これまでを振り返って報告させていただきます。

### 【中学校の指導を始めて】

私はこの札幌北中学校が初任校でした。全国大会という大きな舞台を経験させていただき、子供たちとの出会いや、多くの繋がりに感謝しても感謝しきれません。全国大会に出場した経験を話す前に、後述にもありますように、私のような若輩者が優秀な選手を預かったときに考え、実践したことをお話しさせていただければと思います。

今回本当に選手や周りのスタッフ、先生方に恵まれ、手にした全国大会出場だと心から思っています。北海道のジュニアの指導者には、実に緻密で、選手を一から鍛える指導者、本当に勉強してチーム作りをされている指導者が多くおり、その姿を目の当たりにしていつも自分の未熟さを痛感しております。自分にとってコーチング力、指導力の向上は絶対必要不可欠なことではありますが、多くのことに手を出すのではなく、ある程度自分のできることを実践しようと考えました。戦術の深さ、チームの力を発揮させるための心身ともにコンディションの整え方、課題を要求して選手を育成すること、徹底することの重要性。多くの素晴らしい指導者の方の哲学や指導法を勉強させていただくほどに、取捨選択が難しかったのが事実です。そういった考えの中で、今年度のチームに関しては素直に目標に迎える環境作り重点を置いて指導しました。きちんと選手に自分の伝えたい事が伝えられる信頼関係づくりや、大会本番で思い切ってプレーできるようにすることを大切にしました。(諸先輩方には甘いと思われると思いますが…)そういった意味では札幌北中学校を見て、最後の詰めの甘さや、状況判断の甘さなどまだまだ足りないことが目に付くと思います。しかし、全市大会や全道大会などで見せた勝負強さというのは選手の力はもちろんですが、実践したことが少しは形になった瞬間だったのかなと思います。

もっと私自身がチームを育成するための力をもっと身につけないといけないことを改めて実感しているところですが、もし同じような場面に身を置くことになった先生方が少しでも参考にさせていただければ考えと書かせていただきました。

### 【チームについて】

今年度の札幌北中学校3年生のほとんどが、小学校6年生時にミニバスで全国大会ブロック優勝を経験したメンバーです。ミニバスのメンバーが校区によって中学が分かれることが多い状況の中、メンバーがそのまま入ってくることは非常に恵まれた環境であり、同時に私自身も入学してくる時はかなりプレッシャーで構えてしまっていたと思います。しかしながら、選手たちが素直にバスケットを上手になりたいという想いや、保護者の方々、ミニバス指導者の方々、そして、数多くの先生方のサポートや助言があってこそこの現チームの結果であり、感謝の気持ちでいっぱいです。まだまだ若輩者で、指導力

不足を常に痛感しておりますが、伸びる選手にとっては欠かせない、「素直さ」と「わがままさ」のバランスというのが、現 3 年生は長けていたように感じます。またキャプテンの柴山を中心に仲間との繋がりによっての相乗効果も素晴らしいものでした。そういった考え方の根幹作りもチームのコーチングをしていく上で大切なことだと身に沁みた数年でした。

#### 【中体連まで】

この代は中体連に至るまでの 1 年生大会、新人戦などの大きな大会では、ことごとく清田中学校に負けてきました。結果的に最後の最後まで勝つことができず、今後の大きな課題が残ってしまいました。もちろん大変悔しく、選手たちにも申し訳ない気持ちがあります。ただ、この悔しさがチームにとってタフな気持ちが作れたことや自分自身が常に試行錯誤し、向上心を忘れなかったことは間違いありません。こういった北海道内の中での切磋琢磨が、強い北海道の大きな要素になっていることも感じました。

今年度初めて道外遠征を実施しました。GWに埼玉の春日部カップのお話をいただき、全国レベルのチームと戦うことができました。ミニバス時代優勝することが当たり前であった選手にとって、中学に入ってから大会で優勝経験がないというのは、大きな自信喪失に繋がっていたと思います。そんな中で、埼玉の春日部カップという大会で優勝できたことは、チームにとって大きな転機であったと思います。

#### 【中体連 全市～全道～全国】

今年度全道大会が札幌で開催のため、札幌地区から 4 校が全道大会に進出しました。全市大会を向かえるまでに、上記にもあるように春日部カップから帰ってきてから、見違える程のパワークと確実なシュートセレクション。ディフェンスではコンビネーションも上がり、ボールに対しての執着心やハングリーさが格段にレベルアップしました。ジュニア期において「自信」がパフォーマンスに大きく影響することを肌で感じることができました。しかし、どの学校も直面するであろう、修学旅行とテストが重なり、2 週間程 3 年生が練習できなくなりました。さらに、不運は重なり、防ぎようのない事故等もあり、主力選手の何名かが 1 か月ほど練習できずに全市大会に臨むこととなりました。全道を決める対向陵戦では、序盤は良かったものの、歯車が徐々に合わず、あわやというゲームでした。その後の決勝リーグでも苦しい負け試合をなんとかものにしましたが、2 位で全道大会に進出しました。このときは本当に選手の勝負強さに助けられたとしか言いようがありません。全道大会では、コンディショニングが徐々に良くなってきたものの、初の中体連の全道大会ということもあり、調整には神経を使いました。全国を決める準決勝対帯広西陵戦では残り 4 分で 10 点負けからの逆転と、またも選手の勝負強さと気持ちの強さが際立ちました。前述したとおり決勝で清田中学校に負けてしまいましたが、選手ともども全国で対戦した時は絶対に負けたくないという気持ちで全国大会へのモチベーションともなりました。

#### 【全国大会】

予選リーグは四国 1 位の丸亀西中と東海 2 位の長良中の組み合わせとなりました。全国大会を前に全中経験をされた方から多くのご助言をいただくことができ、コンディショニングや大会に向けて気を付けるべきことなど試合以外の面でも非常に参考になりました。一緒に帯同していただいた、春日先生やトレーナーの深田さんには心より感謝しております。また幸運なことに、2 チームとも動画共有サービ

スで地区大会のゲームがアップロードされており、大変参考になりました。

全道大会を終えてから全国大会を前に確認したことは

①ハーフコートDFのコンビネーション(ピック、インサイドの守り方)

②ブレイクからアーリーへの走り方と考え方

③ハーフコートOFのコンビネーション

に合わせて、キーマンへの守り方とイメージを持った準備を進めていきました。

初戦の丸亀西戦は、スカウティングの成果もあり、イメージ通り自分たちの力を出すことができ 60-47 で勝利。キャプテンのガードを中心に機動力のあるチームでしたが、決定力に難があると踏んでいたため、1対1のDFをある程度苦しいドライブショットをさせることを意識しました。初戦の硬さも心配しましたが、選手は思い切りプレーをしてくれ、ショットもリラックスして打っていたように思います。また、リーグ戦を意識して、なるべく点数差を広げることは終盤意識させました。その結果が守りに入らず最後まで攻め続けたことに繋がったかと思えます。

次の長良戦は、徹底的にハーフコートでのセットプレーに苦しめられ 51-58 敗れてしまいました。インサイドを中心に攻めてくることは、スカウティングでわかっていたのですが、インサイドにヘルプにいけないスペーシングにより、インサイドを一人で守らなくてはいけない時間が続いてしまいました。こちらもオフェンスを重くしたくはなかったので、2ピリからオールコートのトラップディフェンスで仕掛けました。前半はほぼイーブンで終わりました。しかし3ピリに長良もポイントでオールコートで仕掛けてきて点数差を開けられてしまいました。その後はこちらも対応したものの、着実な加点の決定力の差が敗戦の大きな要因の一つとなってしまいました。結果、この長良中はベスト4まで駒を進めることとなりますが、絶妙なスペーシングと、インサイドをいかしたプレーは1年間積み重ねてきたものだと知りました。マンツーマンのみの戦いとなっている状況の中で、相手が守りにくい攻め方を徹底していくことの有効性を感じると同時に、いかに2点を確実に取ることができるかの重要性を痛感した一戦となりました。

決勝トーナメント1回戦の相手は一昨年度全国優勝を果たした福岡の折尾中となりました。結果は 64-80 で敗戦してしまい、ベスト16で全国への挑戦が終わりました。選手は持てる力を出しきれたのではないかと感じます。ここで最も感じたのは、流れに負けない全国レベルの確かな技術力です。当然のことですが、ディフェンスはコンタクトが強く、想像をはるかに超えた圧力だったようです。北海道では多くの高校と練習ゲームをさせていただき、コンタクトには選手も自信を持っていたと思います。しかし、ほとんどのシュートがショートになってしまうほどのプレッシャーでした。リバウンドも同じサイズの選手に幾度となく当たり負けしたのは彼女たちにも初めての経験でした。そして、なによりも流れを断ち切ることができるショットの確実性は圧巻でした。全道大会までは、流れを断ち切るタイムアウトあけは多くの場面でこちらが点数を取るか、相手の失点を抑えることができましたが、ここぞという決定力や勝負勘というのは練習から追求すべきことであると改めて教えられたことです。

## 【最後に】

今回、指導者として全国を経験させていただき、これ以上ない学びの場でありました。再び全国の舞台に立つべく研鑽を積んで参りたいと思います。北海道バスケットボール協会および北海道ジュニアバスケットボール連盟、そして北海道のバスケットボールに携わる方々の今までの活動、そしてご支援、

ご協力があってこそ素晴らしい経験だと思います。この場をお借りして心より感謝申し上げます。中学校以外のカテゴリーの皆様にも練習ゲームなどのお時間を作って下さりありがとうございました。微力ながらもこれからの北海道のバスケットボール発展に貢献できれば光栄です。最後になりますが、今後ともよろしく願いいたします。